

「地域生活を支えるために必要な連携について思うこと」について思ったこと



2018年5月19日

ゆあさいど 千葉純義



「地域生活を支えるために必要な連携について思うこと」と題して「札幌市の現状」「自己満足かイノベーションか」「連携の目的とあり方」の3部構成でお話いただいた。

本レポートでは、講話の主眼でもあった「連携の目的とあり方」について述べたいと思う。

先ず、杉田講師の提案の眼目を私なりにまとめてみた。

これまでは個人的な関係性に依存した連携が多くを占めていた。しかし、そこにある連携は不安定で広がり欠けるものである。これからは個人的な関係性に依らない仕組みが必要である。その仕組みのあり方の一つとして、特別な技術を要するケースについて、熟練技能を有する事業所がコンサルティングやOJT教育を担当事業所に対して実施する。その調整役を相談支援事業所が担うが、調整に当たってはアセスメントの質が重要である。一方で、連携の成果は足し算ではなく掛け算の総和となるので、そこでは事業所の「想い」も大切な要素である。

熱意だけでは連携が広がることなく、往々にして事業所の自己満足に収斂しがちであることは多くが承知していることであり、仕組みが必要であることは大いに頷けるものであった。

今回、初めてさっぽろ行動援護ネットワークの会合に参加させていただいたが、関係者の熱意には、ただ圧倒されるばかりであった。団体の発足から3年目とのことであるが、今回の研修・座談会以外にも様々な活動もされているとのこと。つまり、十分な行動力をお持ちである。

そこで湧いてきた妄想である。先ずは簡単な仕組みを構築した上で、行動援護ネットワークを通じた有志による連携活動を始めてみるのも一つの方法かなと感じた。仕組みの細部については、実際の活動による成果と反省を通して洗練させていく。それを継続させるためには、関係者の「行動」を「援護」した上で「ネットワーク」を有機的に繋げた仕組みを構築して、将来的には「さっぽろ」発の先進事例、イノベーションともいえる、にするような役割が求められてくると思う。その役割の担い手の一つに委託相談支援事業所があるのではないか、と。

最後に、委託相談と指定相談の違いについての解説が解り易く、とても参考になったことを申し上げて本レポートを締めさせていただきます。

以上

事例報告から感じたチーム支援の重要性の再認識

訪問介護事業所
たてっちケアサービス

館山 尚史



先日さっぽろ行動援護ネットワーク主催のヘルパー研修・座談会に参加させていただきました。その中で一部で行動援護を行っている事業所の「社会福祉法人あむ 居宅介護等事業所ばでい」で管理者をしている白川栄義さんの事例報告がありました。

事例報告の内容としましては、自閉症のCさん（50代、男性）の支援に関する内容でした。サポートが必要な部分としては外出の際、危機回避・安全面に不安があることから行動援護を利用し、また、生活全般での見守りも必要でオストメイトであったことからストーマの管理、食事・服薬管理等居宅介護も入っていたそうです。

Cさんを支えるチームは家族をはじめとして相談員、ヘルパー、医療機関、訪問看護等様々でそれぞれがCさんの希望である「健康を維持しながら安心できる暮し」を実現するためにチームが一丸となって支援を行っていた様子を報告の中で感じました。白川さんはチームでの支援に対して「積み重ねのすごさ」「本人の主体性を大切にできたと感じた」と話されていました。



当社がさっぽろ行動援護ネットワークに参加させていただいてから約2年がたっています。研修会・座談会への参加も数を重ねるごとに事業所同士の横のつながりも感じています。地域での福祉サービス利用者をひとつの事業所で支えることは不可能です。他事業所同士が連携を行うことで地域福祉の発展を支え、より良いサービスの提供が可能になるのではないかとこの報告から再認識することができました。

ケース発表「機関支援の助言を活用した事例紹介」

掛橋 悠佑

ケアサービス あうる



5月19日開催のヘルパー研修にて、株式会社北海道ケア・サポート らいとくらぶ
統括 長谷川氏より「機関支援の助言を活用した事例紹介」について講演して頂いております。



ご利用者様の問題行動について、事業所内だけの話し合いだけでなく、機関支援の助言を取り入れる事によって、ご利用者様により良いサービス提供ができる事を、わかりやすく具体的にケース発表をして頂きました。自分達も今後、ご利用者様により良いサービスを提供し、ご利用者様のご希望をできる限り実現し、ご家族様の介護負担軽減やスタッフと困難事例への積極的取り組みを今以上に強めていきたいと感じました。

事業所での課題について

- ・行動に見通しが立たない時に、不調になる事がある為、見通しを持って貰えるにはどうしたら良いか？
- ・前もって見る事の出来る電車を伝えたいが、道路事情により見れない事もある為、どう提示したら良いか？
- ・こだわり行動を軽減できるよう、電車の待ち時間(空白時間)をどう過ごして貰ったら良いか？

まとめ

- ・活動への興味関心を増やす為の会議
- ・らいとくらぶでの活動が楽しいものになる為の支援方法
- ・余暇の内容を飽きない為の工夫



活動に関係ない行動(問題行動)を減らし、集中して楽しく活動する事ができる。

座談会に参加して

居宅介護等事業所ばでい 山口 紗季



座談会後半の GW では①事業所内で行っている工夫や課題②事業所の垣根を超えたつながりについて期待すること③札幌市が検討している行動援護のフォローアップ事業に期待することの、3つのテーマで意見交換を行いました。②の他事業所とのつながりや③の行動援護フォローアップ研修に期待する事はたくさんあるという一方で、それ以上に現状の課題（人手不足、引継が難しい、作成する事務書類が多すぎる）や、他事業所との交流を持つための時間の確保ができないという話題も多かったです。



ただ、やはり他事業所と連携ができると、同じ利用者さんへの統一した支援ができる、アセスメントの視野が広がる、1つの事業所で利用者を抱え込まなくて済む、ネットワークを活用して色々な人と相談し合える関係性ができる、というような支援の質の向上につながられるのではという意見が多く出されていました。

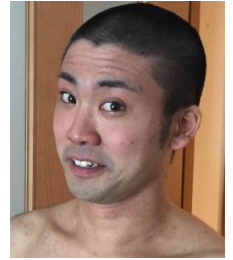
講話の中で連携をとっていく為には「想いだけではなく仕組みが必要」とありましたが、とても共感しました。他の事業所はどう連携をとっているのか？どう時間を捻出しているのか？もっと知り「このやり方はイイね！」という各事業所のイイ所取りした連携の仕組みができれば、ステキだなと思いました。



どの事業所も連携をとっていこうとする時に、人材や時間の確保が課題に上がるのですが、利用者さんのとの関わりはきっと想いを持って行っていると思うので、「事業所交流会」「実践報告会」の様なものだけではなく、「事業所自慢大会」「関わりで面白かったこと発表会」の様なゆるい感じのものも出来たら良いなと思いました。

「僕は懇親会のために生まれてきた」

有限会社 colors 「眠れる獅子」 川村 一真



ヘルパー研修・座談会の終了後、炭火やBB北24条店にて、懇親会（一次会）が行われました。

参加者は26名もあり、研修会参加者の76%もの高い出席率でした。数回前の開催時は、研修参加者と懇親会参加者が同数（100%）だったこともあり、行動援護従業者の方たちは、飲み会を欲していることが毎回よくわかります。

事業所の垣根を越えて他事業所の方々とのつながりをもてるのが、一番の参加者のメリットなのではないかなと思います。自分ひとりで解決しないことも、いろいろな方とのつながりの中でのたわいのない話の中にヒントをもらえたり、元気をもらえたりするのが、飲み会のよさなのではないかなと思います。

同時に同じことで困ったり、答えを出せてないことも「困ってもいいんだ」「悩みながら続けるというのも一つの答えなんだ」と思えることに同業種の安心感がハンパありません。

「行動援護」「ヘルパー」の課題も希望も全て「サービスを利用する人が中心」という想いを会場の皆さんとわかちあえたのは僕にとって大事なおみやげになりました。



2次会は「プロレス居酒屋」というには何もプロレスっぽいものがなく、むしろ「手羽先居酒屋」の方が合ってるのではないかなというお店に行きました。

当社代表のゴリは手羽先50本オーダーするという一見暴挙のような行為をしましたが、メンバーの旺盛な食欲により心配は不要でした。むしろやっぱりゴリの言う通り最初から100本注文した方が良かったのではと、あらためてその分析力に頭がさがりました。1本50円の安さは破壊力がありません。

ただ、アツアツは美味しかったです、ぬるくなってからの味の保障はできません。やはり50本が良かったのでしょうか。

行動援護ネットワークで行っているRunning部に、研修の発表者でもあったらいくらぶ長谷川さんのサプライズ参加表明がありました。

ランニング繋がりで爆風スランプの「Runner」の熱唱があったりと、やや学生ノリが見受けられたものの、その裏では僕を含めた若手従業者が講師の杉田さんにアドバイスを受けている光景がありました。石田さんはランニング部のTシャツの件で田村さんと話してましたがウトウトされてました。

にもかかわらず「大きな玉ねぎの下で（やはり爆風スランプ）」のイントロがかかるとさっそく歌いだすところは尊敬に値します。

全員が場のノリを作ろうとしているという点でもネットワークのチームワークの良さが見受けられました。とても価値のある時間を共有できました。参加された皆さんもそう感じていたと思います。いや、感じてないとおかしいです。…感じていてほしいと願ってます。。

杉田さんお望みのPGにお連れできなかったことだけが悔やまれますが、終電前に家路につくことができ、お財布的には助かりました！（2次会の写真を撮り忘れてしまいました、、、）

研修と懇親会のセットは継続してもらえると、勤務の都合上どちらかだけの参加の人も助かりますし、志を同じくした仲間のアツい話が聞けると明日の活力になります。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりますが、行動援護ネットワークの皆さんには研修・懇親会の調整等ご尽力いただいたと思います。この場でお礼をさせていただきます。ありがとうございました！